

956-20

昭和49年度 自昭和49年4月1日
至昭和50年3月31日

事 業 報 告
決 算 報 告 書

財団法人 日本常民文化研究所

956-20

昭和49年度事業報告・財産目録・貸借対照表・損益計算書並に損益処分案
は次の通りであります。

昭和50年6月1日

財団法人 日本常民文化研究所

理事長	有賀 喜左衛門
理事	河岡 武春
"	桜田 勝徳
"	渋谷 雅英
"	杉本 行雄
"	二野瓶 徳夫
"	宮本 馨太郎
"	宮本 常一
"	山口 和雄
監事	小宮山 若木
"	高木 一夫

目 次

- (一) 事 業 報 告
 (二) 貸 借 対 照 表
 (三) 損 益 計 算 書
 (四) 財 産 目 録
 (五) 損 益 金 処 分 案

(一) 事 業 報 告

アチックミュージアム創立五十周年記念事業として、第1回民具研究講座を日本青年館において開催した。定員200名を越す盛況で、方法論の確立はもとより、民具研究者間の交流、博物館情報の交換などに資することができた。さらにこれが機縁となって民具学会の設立が提案され、検討されることになった。いうまでもなく、本講座は今後、積極的に拡大していく必要がある。

釜研究会および民具研究会は、ひきつづいて活発であり、とくに後者は講座にも直接結びつけよう進めている。

水産庁資料館よりの所蔵古文書目録の編纂委託をうけ、半数に近い16,000余点の整理を終え、「水産庁資料館所蔵古文書目録」(50年3月)を刊行した。

地方博物館所蔵民具の「資料化」は、石川県羽咋市金丸出町資料館について、撮影、計測、開とりをおこない、カード化259枚をなした。

民具マンスリーは第7巻を終了し、会員も463人(年度末)に増加した。これは講座開催によるところが大きい。

『民具辞典』については、本年度内のとりまとめが出来なかった。

昭和49年度

貸借対照表

昭和50年3月31日現在

公 益 部		勘 定 科 目	收 益 部		合 計	
借 方	貸 方		借 方	貸 方	借 方	貸 方
5,948,405	円	物 品	円	円	円	円
294,041		備 器		5,948,405		
39,174,400		有 価		294,041		
3,179,040		預 現	91,509	39,174,400		
4,518		金 入	9,232	3,270,549		
21,107,435		元 基		13,750		
	800,000	通 常		21,107,435		800,000
	41,761,100	積 立				41,761,100
	21,850,149	出 版 準 備 積 立 金				21,850,149
	1,800,000	繰 入	15,437,068			1,800,000
		元 受		21,138,354		21,138,354
	130,525	未 預				130,525
	14,200	仮 払	228,375			14,200
				228,375		

14

貸 付 金		貸 付 金	
棚 卸 在 庫 高 小 計	当 期 利 益 金	当 期 損 失 金	合 計
180,000	166,711,84	4,467,170	21,138,354
725,000	3,351,865		21,138,354
	86,379,023		90,846,193
69,707,839	69,707,839		

5

昭和49年度

損益計算書

昭和50年3月31日現在

勘定科目	公益部		収益部		合計	
	損失の部	利益の部	損失の部	利益の部	損失の部	利益の部
① 職員給与	1,080,000円		3,240,000円		4,320,000円	
② 会費	19,886		112,697		132,583	
③ 旅費	54,360		308,040		362,400	
④ 消耗品費	43,554		246,806		290,360	
⑤ 印刷費	5,544		31,421		36,965	
⑥ 通信費	3,784		211,915		249,761	
⑦ 水道光熱費	68,26		38,693		45,519	
⑧ 資料蒐集費	46,339		185,360		231,699	
⑨ 調査費	89,896		509,414		599,310	
⑩ 民具マンスリー	1,034,740				1,034,740	1,034,740
⑪ 民具研究講座	606,300				606,300	606,300
⑫ 水産庁委託費	2,989,525				2,989,525	2,988,975
⑬ 労働賃	24,000		96,000		120,000	
⑭ 公租	24,770		10,960		35,730	
⑮ 備品	106,962				106,962	
⑯ 雑費	21,859		122,494		144,353	

⑰ 支払利息	115				115	
⑱ 財産処分損益	671,337				671,337	
⑲ 減価償却	327,533				327,533	
⑳ 繰越在庫金	2,740,378		675,000		675,000	2,740,378
㉑ 株式配当	336,412				336,412	
㉒ 預金利息	1,782,730		596,630		2,379,360	
㉓ 売上	889,412				889,412	
㉔ 雑収入	1,805,150				1,805,150	
㉕ 棚卸在庫	10,543,057		725,000		11,268,057	
㉖ 小計	7,191,192		1,321,630		8,512,822	
㉗ 当期利益	3,351,865		4,467,170		7,819,035	
㉘ 合計	10,543,057		5,788,800		16,531,857	



昭和49年度

財産目録

昭和50年3月31日現在

公益部

資産の部

建物 5,948,405
 備品 294,041
 有価証券 39,174,400

第二綱町レヂデンス813号室購入

会議用机, 椅子, 書架, リンゴビー他 550,400 円
 清水建設 7,905 株 2,133,000
 東京電力 3,600 株 28,375,000
 山一公社債 2,830 口 1,050,000
 山一ファミリー 100 口 990,000
 東京電力 1,000 口 1,154,000
 神戸製鋼 1 万口 2,698,000
 東京ガス 2 万口 2,224,000
 新日本製鉄 15,000 口 500,000
 第一勧業銀行銀座支店 定期預金 2,469,331
 協和銀行麻布支店 " 209,709
 " 普通預金他
 収益部運営資金として元入

預入金 3,179,040

元入金 21,107,435

負債の部

基本金 800,000

通常財産 41,761,100
 積立金 21,850,149
 出版準備積立金 1,800,000
 預り金 14,200
 未払金 130,525

第一勧業銀行銀座支店 定期預金 500,000

清水建設 2000 株 (評価) 300,000

前期より繰越分

既往年度益金繰入

益金中より創設

民具研究講座講師実演料に対する源泉税

水産庁委託事業 1~3 月分源泉税

収益部

資産の部

預金 91,509
 繰入損金 15,437,068
 棚卸在庫高 725,000
 仮払金 228,375
 貸付金 18,000,000

協和銀行麻布支店 普通預金 80,829

港区三田台郵便局 振替貯金 10,680

既往年度に於ける損失繰入額

既往刊行図書残部

民具辞典原稿料

負債の部

元受金 21,138,354

運営資金として公益部より元受

昭和49年度

損益金処分

昭和50年3月31日現在

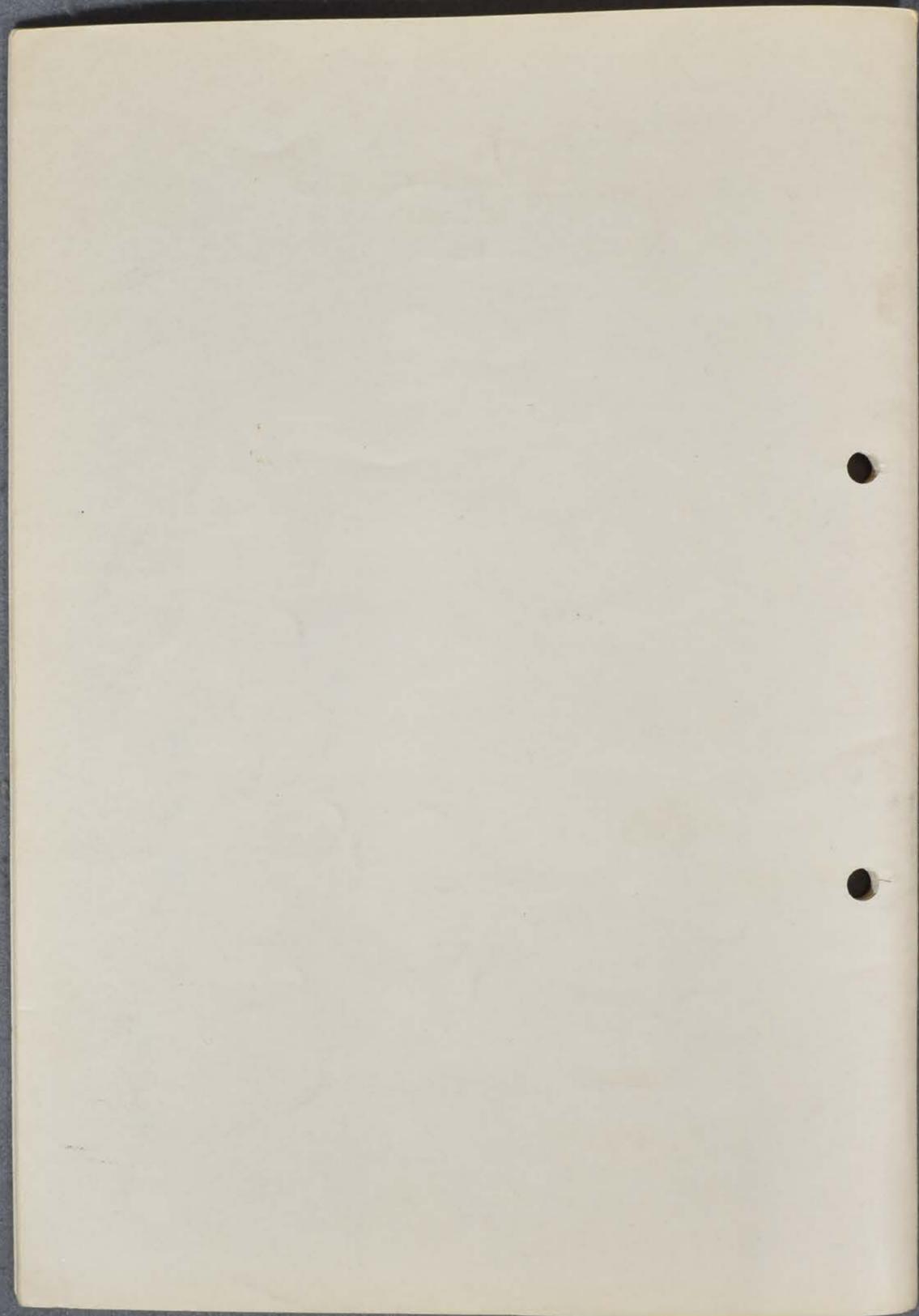
公 益 部			
当 期 益 金 処 分	3,351,865		
		出版準備積立金へ繰入	3,000,000
		積立金へ繰入	3,051,865
		計	3,351,865
収 益 部			
当 期 損 失 金 処 分	4,467,170		
		繰越損金へ繰入	4,467,170

決算報告書と出納諸帳簿を照合いたし相違ないことを証明します。

昭和50年6月1日

小宮山 若木 印

956-20



720

昭和50年度

事業計画
収支予算書

財団法人 日本常民文化研究所



(一) 事業計画

昨秋の第1回民具研究講座（於日本青年館）は控え目にみても成功であった。文字通り、北は北海道から、南は沖縄まで、200余人が一堂にかいして熱気のこもる講座内容をもちえたことは喜ばしい。

このことの持つ意味は大きい。世上のいわゆる民具、民芸ブームとは裏腹に、民具の重要性の認識はようやく本物となり、学問的な裏づけの必要なこと、また民具を対象とする博物館も、あるべき姿を本格的に模索しはじめたことがうかがわれ、民具の収集・整理および展示・保存についてもこれに取り組む真剣さが注目された。つまり伝統的な生活文化の再認識の波がおこり、認識のための具体的な方法にたいする社会的要請が増大しつつあるとみることができる。その意味において、アチックの役割は一層重要となった。今後は「民具研究講座」をわれわれの事業の1つの大きな柱とする必要がある。

筌研究会も民具研究会もしだいに活発となり、とくに民具研究の月例会は本格的なものとなり、そこでの報告は論集にも、また民具講座にも活かしているものとなり、調査研究者の層を厚くするのに役立っている。また、幸いにして水産庁資料館よりの同館所蔵古文書目録の編纂委託事業がはじまり、戦後24年以降に行われた漁業制度資料事業のうち、未整理分の活用の道が開かれることになった。そして、しばらく中断していた漁業史関係の仕事もこれを契機に復活させることが可能となった。上記のことなどを基礎にして、新たな研究員制も拡充していきたい。

I 「民具研究講座」の拡充

上記のごとく、民具講座は当初の意図以上にその役割は大きなものとなった。そこで第2回では一定の需要にこたえて定員を拡充し、2部会場制を試みたい。

また周田民族の民具との関連を留意し、方法論の検討ないし民具調査、整理の実務面も一層の充実をはかりたい。さらに民具の形とはたらきをテーマとして、(1)土器・陶器づくり、(2)石臼（挽臼）、(3)筥、(4)編みもの・織りものについて共同報告を行う。これを平行して展示や実演をおこない理解を容易にらしめる。これを要するに、本講座は、広い意味での方法論づくりの実験であり、いわゆる講座をこえた研究報告であり、新しい民具研究の担い手の登竜門でもある。こうしたダイナミックな民具研究へのアプローチは、民具を扱う博物館にたいしても好影響を与えるものと思われる。また学芸員の資質の向上も急務であり、講座のこれに応える体制は本年において一おう出来あがる。そうして、さらに次回以降においても意欲的なテーマをかかえて、これまでの個々人の研究成果を総合化、体系化して講座を構成していくならば民具学推進の強力な戦力となしうるであろう。その意味においては、民具研究の前途は明るくなったといえよう。

Ⅱ 「水産庁資料館所蔵古文書目録」の作成

水産庁資料館の開設20周年の記念事業として、上記目録の編纂が始められたが、その中核となるのは国学院大学近世史研究会の有志をふくむ十数名である。これは戦後アチックの一連の事業であり、ここから日本漁業史研究の復活の契機を得たく念願している。

Ⅲ 「筥」「民具」研究会

まず、民具研究会は、参加者は15名内外で、しだいに本格的な報告が行われるようになり、討議もひじょうに活発となった。報告者は東京周辺に限らず、ひろく地方からの参加もみられ、研究会を通しての民具研究の基盤づくりに有効性をもちうるようになった。

これとあわせて、民具調査・整理の実務など、主として博物館業務にかかわる分野も、別に研究会の必要を痛感する。

筥研究会も、小林茂氏の荒川水系における収集筥100点の個体研究を通しての水系別における筥のあり方など本格的な成果もみられはじめ、文献研究も大分進んできている。

Ⅳ 「研究員制」の確立

民具の学問や漁業史など、アチックが手がけてきた学問分野は概ね従来の学者が顧みなかった領域であった。そして、これらの領域の開拓にチームワークをもってした。その基礎がアチック同人制にあったことは周知のごとくである。ここにおいて、現在の状況下では、研究所活動は必ずしも研究員を中に擁することのみ主眼があるとは思われない。広い意味での上記の学問分野について、地方の研究者において真にアチックを必要とする人たちと、アチック同人制にならって、積極的に共同研究の実をあげていきたい。49年度においては、下野敏見氏（鹿児島）の「薩南諸島民具の調査研究」1件のみであったが、本年は数件を予定している。

Ⅴ 「民具辞典」の編纂その他

民具辞典のとりまとめが遅れているが、中断している「民具論集」などとも軌道にのせたい。また「民具マンスリー」は発刊いらい8年目を迎え、困難な条件下にて増頁を重ねて、機関誌の役割がほぼ定着した。

昭和50年度収支予算

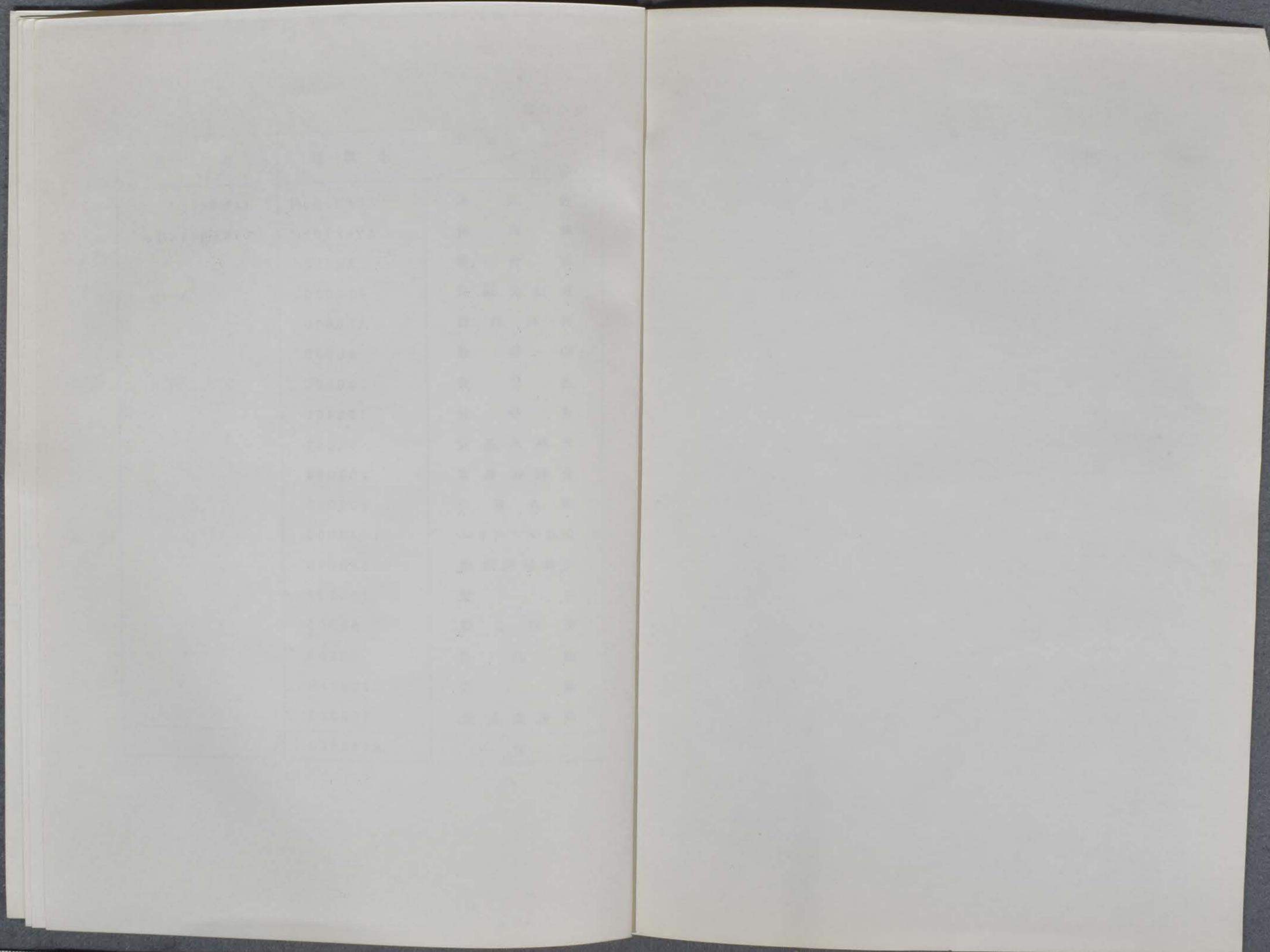
収入の部

区 分 項 目	金 額	備 考
預 金 利 息	200,000円	
株 式 配 当	3,130,000	
出 版 物 売 上 金	1,000,000	
委 託 費	0	
民 具 マ ン ス リ ー	1,140,000	
民 具 研 究 講 座	650,000	
雑 収 入	100,000	6,220,000
基本財産取りくずし	2,212,500	
計	8,432,500	

支出の部

区 分 項 目	予 算 額	備 考
役 員 給	2,240,000円	14万円×16
職 員 給	2,362,500	9.45万円×16ほか
会 合 費	30,000	
旅 費 交 通 費	400,000	
消 耗 品 費	100,000	
印 刷 費	60,000	
通 信 費	200,000	
共 益 費	100,000	
光 熱 水 道 費	50,000	
資 料 収 集 費	200,000	
調 査 旅 費	200,000	
民 具 マ ン ス リ ー	1,140,000	
民 具 研 究 講 座	650,000	
労 賃	100,000	
公 租 公 課	50,000	
備 品 費	50,000	
雑 費	200,000	
研 究 委 託 費	300,000	
計	8,432,500	

720



720

